

いたばし支え合い会議（第1層協議体）

正式名称	板橋区助け合い・支え合いの地域づくり会議	
現在の構成メンバー	<p>全20名</p> <p>町会連合会、民生・児童委員協議会、老人クラブ連合会、商店街連合会、東京都健康長寿医療センター、板橋区社会福祉法人施設等連絡会、介護サービス全事業者連絡会、いたばし総合ボランティアセンター、地域包括支援センター、福祉の森サロン、シルバー人材センター、社会福祉協議会、第2層生活支援コーディネーター（4）、板橋区（3）、第1層生活支援コーディネーター</p>	
役割	<p>（1）第2層に対するトップダウン的な役割ではなく、第2層の動きを横断的かつ俯瞰した目線で捉え、第2層それぞれの動きを踏まえた活動を考える</p> <p>（2）主に第2層の各圏域の課題やニーズ、対応策などを情報交換（共有）し、その情報を活用すること（A地域の情報をB地域に共有するなど）を含め、第1層として「できること」を考える</p>	
第1回	日時	2016年7月15日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■日本の将来の姿、地域包括ケアシステム（板橋区版A I P）の理解 ■生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター・協議体）の理解
第2回	日時	2016年9月6日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■第1層協議体の運営方法等のあり方について意見交換 議事録は概要版を公開する、傍聴は認める 傍聴規定などのルール作りを次回以降検討 ■第1層協議体の役割など次回の開催に向けた意見交換 第1層協議体の役割、座長等については次回以降検討
第3回	日時	2016年11月24日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■都内他自治体の進捗状況の説明 ■生活支援体制整備事業の理解 ■第2層の現況確認 ■第1層協議体の運営方法等のあり方について意見交換（傍聴規程、座長、代理出席） 傍聴規程及び座長を決定 基本的には構成メンバー本人が出るが、代理出席も可能とする （協議体のあり方がもう少し煮詰まってから再検討）
第4回	日時	2017年2月1日
	場所	グリーンホール601会議室
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■第1層協議体の効果的な運用方法（幹事会、作業部会等） ・幹事会は適宜実施する ・作業部会は今後の協議体の動きに合わせて設置する ■協議体の通称・愛称 次回までの宿題とし、次回に検討する

		<ul style="list-style-type: none"> ■第1層協議体ができること（全区的な周知を目的とした講演会等） 次回以降に検討する ■第2層の現況確認 ■板橋区における総合事業の現況確認
第5回	日時	2017年7月24日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■第1層の今までの流れ ■第2層の取組状況 ■協議体の別称名・略称名（通称名・愛称名） ・現在の「助け合い・支え合いの地域づくり会議」を正式名称とし、別称・略称名を「支え合い会議」とする ・第1層を「いたばし支え合い会議」、第2層を「支え合い会議●●（地区名）」とする ・第2層協議体の代表者（生活支援コーディネーター等）の参画 次回以降ブロック圏域で代表して第2層の生活支援コーディネーターが参画する ・現在3ブロック（4地域）で第2層生活支援コーディネーターが選出されているため、3人が参画する予定 ・全18地域で第2層生活支援コーディネーターが選出された場合は再度運用方法を検討する ■その他第2層の動きを踏まえた第1層協議体のあり方・できること 第1層主催のフォーラムはもう少し第2層が立ち上がってからの開催を検討していく
第6回	日時	2017年12月21日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■新構成メンバーの紹介 第2層生活支援コーディネーターが配置されている地域ブロックの代表者3人が新たに参加 ■情報交換・情報共有 ①第2層の取組状況 第2層への支援状況（SC養成研修、研修会、連絡会など）や今後の予定について情報共有 ②第2層予算内訳 第2層の予算運用について情報共有 現在は立ち上げ直後の地域と継続運営している地域で予算運用の認識に差があるため、最終的な検討は全地域の立ち上げ後に行う ③板橋区社会福祉大会での事例発表報告 事例発表を行った第2層協議体の一つ桜川地域の取組内容について情報共有 ④第7期介護保険事業計画 中間報告における生活支援体制整備事業 第7期介護保険事業計画について情報共有 ■協議・意見交換 ・第1層も「協議体」として、広域の地域課題を検討していく場にしていく

		<ul style="list-style-type: none"> ・全地域立ち上げ後は、1地域だけで解決できないこと、他の第2層協議体にも関連するものが出てくるため、第1層はその部分話し合い支援する場とする ・第2層SCの参加により、第2層の情報・第2層SCとしての実際の意見を聞く機会となった ・ブロック代表として、ブロック内地域の連携を図り、第1層で情報提供・収集をして、ブロックへ持ち帰りたい。また、ブロック内で出た課題の検討を提案したい ・第1層協議体構成メンバーは各団体の代表として、事業全体や第2層協議体の取り組み状況をそれぞれの団体へ持ち帰って、会員・メンバーへ情報提供、周知啓発する役割となる ・今後は多世代への発信方法の検討も必要となる
第7回	日時	2018年3月28日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	<p>■情報交換・情報共有</p> <p>①第2層協議体連絡会の報告 3/14に行われた第2層協議体連絡会について情報共有</p> <p>②生活支援体制整備事業 今後の予定（平成30年度重点項目） 第2層協議体立ち上げ支援（5地域）、第2層協議体運営支援（SC未選出地域）、第2層協議体活動支援（SC研修・連絡会等開催、広報啓発活動）等について情報共有</p> <p>③第2層協議体予算内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は総額は変わらずに、SC活動費（活動報酬・月払い）、第2層協議体運営費・事業費（概算払い）に分類する ・SC活動費に関しては流用可能（諸要件あり） <p>■協議・意見交換</p> <p>①第2層協議体連絡会について（参加者の感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の報告を聞き、先行地域の取り組みが非常に参考になるなど、横のつながり、情報共有の重要性を再認識した ・各地域が積極的に意見交換しており、各地域で第2層協議体が盛り上がっていることを実感できた ・第1層協議体として、今後の協力・支援方法を考えていきたい <p>②第1層協議体の今後の取り組みについての提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体からの課題の集約・検討 ・各団体からの情報提供と発信・蓄積方法の検討（インターネット等の活用） ・構成メンバーの所属団体内での協議体の情報共有・周知・連携を進める ・第2層協議体への支援方法の具体的な検討 ・第1層構成メンバーの研修として、他自治体への視察・情報交換の機会を持つ ・多世代への周知、啓発 ・福祉に関する地域や行政の情報の整理 など <p>③その他提案 ブロック連絡会の開催</p>

第8回	日時	2018年8月30日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	<p>■構成員の委嘱 構成員の任期が新しくなるため、委嘱式を行った 任期は平成32年3月31日まで</p> <p>■情報交換・情報共有</p> <p>①第1層協議体の方向性等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体がスムーズに進むようにできる範囲で協力体制をとる ・第1層協議体の構成員は第2層協議体に参加し、必要に応じて協力する（オブザーバー形式） ・第2層でブロック毎の会議を行うべきという意見がでた ・全地域で第2章協議体が立ち上がってから開催したい <p>②第2層協議体での取組状況報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜川：3グループに分かれて活動している 地域の老人クラブの紹介チラシの配布、サロンチラシの作成、お散歩マップの作成等を行っている ・高島平：高島平シニアガイドを作成する過程で、地域の方々と交流する機会があった サロン立上げの相談をされたりした ・仲宿：各町会の役員会に支え合い会議のことを周知している 今後は地域住民に向けたマップ等を作成する予定 ・その他 第2層協議体の実費弁償について協議を行った
第9回	日時	2019年2月25日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	<p>■前回会議からの進捗状況</p> <p>■第2層協議体各地域の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知・PRの結果、地域活動の参加者や協力者が増えている地域がある ・男性の社会参加促進のため、お散歩マップ、地域資源マップを作成している地域がある ・各地域団体でも、年末の防火防災パトロールや囲碁・将棋倶楽部等の男性への働きかけを行っている <p>■第2層支援計画について</p> <p>会議の進め方、事業の基礎知識、活動実践事例等の研修内容を考えている</p> <p>■板橋区版事業ガイドブックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業理解を高めるため、ガイドブックを作成する ・東京都健康長寿医療センター研究所の藤原先生に協力してもらう <p>■協議・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体連絡会の時間が足りなかった ⇒今後、ブロック単位での開催を検討していくこととする <p>■第2層協議体での取組状況報告について</p>

		<p>①上板橋ブロック（桜川）：地域に支え合い会議のことが浸透していないため、今後は周知・PRを強化していく</p> <p>②板橋ブロック（仲宿）：男性の社会参加のため、お散歩マップ、地域資源マップを作成中</p> <p>③志村ブロック（高島平）：広報誌を作成しただけではなく、作成した後にどのような取組みを行うかが大事である</p>
第10回	日時	2019年9月30日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	<p>■構成員の委嘱 委託先の変更に伴い、いたばし総合ボランティアセンターの所長を新たな構成員として委嘱をおこなった。</p> <p>■前回会議からの進捗状況</p> <p>■第2層協議体各地域の取組内容</p> <p>①様々な地域で広報誌等による周知、地域資源マップの配布などの活動が広がっている</p> <p>②高齢者と子どもの関わりをつくる活動を行った地域もあった</p> <p>■第2層支援計画の進捗及び報告について</p> <p>①研修会で全国社会福祉協議会の後藤氏に講師を依頼し、地域共生社会についての講演を実施した</p> <p>②フォローアップ研修として、協議体運営時のルールとなる「全員が納得する合意形成」について、NPO法人れんげ舎の長田先生による研修を実施した</p> <p>③SCとリハビリテーション専門職の連携を深める目的で、「SC×リハ職合同大会」を実施する予定</p> <p>④第2層協議体の連絡会は令和元年度より4つのブロック別に実施する</p> <p>■「板橋区支え合い会議（第2層協議体）取組みガイドブック」の作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区のブロック代表の第2層SCや東京都健康長寿医療センター研究所の藤原先生に制作協力をしていただいた、支え合い会議取組みガイドブックが完成した ・事業内容に加えて会議の特性や進め方についても掲載している <p>■協議・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1層メンバーの得意分野を活かし、連携しながら第2層協議体を支援したい ・参加、協力しているメンバーが第2層協議体だけでなく、地域の様々な団体・活動と横につながることで、地域の担い手不足の解消につなげたい ・区内部での支え合い会議の認知度がまだ低いため、今まで以上に区内部での認知度が上がるように努めていきたい ・協議体という基盤をもとに、生活支援と介護予防を切り離さず、一体的に取り組むこと、専門職がもっと参画することが必要と考える ・今後の協議体の発展には、ボランティア団体と住民を繋げる役割も大事だと考える
第11回	日時	2020年3月3日
	場所	板橋区役所2階人材育成センター
	主な内容	新型コロナウイルス感染症拡大により中止

第12回	日時	2020年6月26日
	場所	新型コロナウイルス感染症拡大により書面開催
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■前回会議からの主な進捗状況 ■各地域の取組状況 ■令和2年度事業計画
第13回	日時	2020年12月22日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■前回会議からの主な進捗状況 ■第2層協議体の現状と課題及び支え合い活動の創出に向けた今後の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ・支え合い会議での協議が成熟していくことで、実際の取組の課題も現れてきた ・今後は支え合い会議の活動の方向性、ゴールを明確にすることが必要である ・様々な事業との連携によって、支え合い会議の取組を具体化できるのではないかと ・支え合い会議の取組と介護保険サービスへの連動を検討していきたい ・比較的元気な高齢者に向けて、地域活動への意識を高め、地域に出ていく仕組みづくりを担っていきたい ■協議・意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・会議の開催中止も続き、計画の変更を余儀なくされた ・地域の高齢者アンケートは調査方法を見直して実施することができた ・協議体やSC会議をZoom等のオンラインで開催するなど、協議の場を維持できるように工夫している ・構成員からは各団体や地域の課題が報告されているため、今後は課題に対する具体的な取り組みを検討していきたい ・メンバーが情報を持ち寄り地域資源カードの作成を進めており、今後は高齢者に情報を届ける仕組みを作りたい ・地域をよく知るSCと所属団体との連携を深めていきたい ・老人クラブとしてこれまで培ってきたノウハウを相互に伝達し合うため、各地域の第2層協議体への積極的な参加を進めていきたい ・地域で気になる高齢者に気づいた時に、支え合い会議から専門職へつなぐ仕組みができるといい ・各分野の法人が集まる社福連と支え合い会議とがつながると分野を超えた専門職との連携や相談などの連絡体制が構築できる
第14回	日時	2021年4月14日
	場所	板橋区立グリーンホール 2階ホール
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■研修「地域共生社会と地域包括ケアシステム」 ■第1層・2層協議体構成員交流会
第15回	日時	2022年3月29日
	場所	板橋区立グリーンホール 2階ホール
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■令和3年度支え合い会議の取組について（進捗報告） ■第2層協議体の課題と今年度の成果 <ul style="list-style-type: none"> ・支え合い会議での協議が成熟する中で、具体的な支え合い活動を創出する地域が出てきている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・業間の連携や協議をさらに進め、新たな活動創出を推進していく ・第1層構成員の所属団体や所管課との連携強化を進める ・異分野の企業・団体や高齢者を中心とした多世代の参画を進めていく ・地域の情報が集まる第2層SC拠点を確保する <p>■令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2層SCの感じている課題や想いを直接企画に反映し、地域住民のアイデアや視点を生かす研修等を計画している ・第2層SC研修や連絡会を通じて、ブロックや第2層圏域のネットワークを強化し、SCの課題解決力向上をめざす <p>■協議・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合い会議活動の創出に向けた協力者の拡大に向け、板橋区と企業との連携協定に基づき、地域づくりや見守りについて連携を進めていく ・町会・自治会や民生・児童委員等の地域団体との連携を深めていく中で、地域活動における第2層協議体の位置づけや役割を明確にしたい ・第2層協議体の取組みの周知が充分でないと感じるため、参画してもらええる仕掛けやきっかけづくりをしていく
第16回	日時	2022年7月8日
	場所	板橋地域センターレクホール
	主な内容	<p>■構成員の委嘱</p> <p>令和3年度末の構成員任期満了に伴い、令和4年度構成員の委嘱式を行った 任期は令和6年3月31日まで</p> <p>■事業概要説明</p> <p>■第1層協議体の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の重点的取組みとして、事業間の連携や協議をさらに進め、新たな活動創出を推進していく他、異なる分野の企業や団体を中心に多世代の参画を進めていく <p>■活動マニュアル作成報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合い会議における活動創出のための段取りや心構えを明記したマニュアルを作成した ・「見守り活動」「社会参加・生きがいがづくり」「居場所・サロンづくり」「助け合い活動」の4つの観点から活動例を記載している <p>■第1層協議体主催のセミナー開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合いの活動創出等に必要ない手確保のため、第1層構成員の所属団体のネットワークを生かし、地域活動者への事業理解・周知を目的とした「地域づくりセミナー」を開催予定 <p>■協議・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1層協議体として何をしていくのかが課題 ・第1層協議体が活動することで様々な団体に支え合い会議という活動を理解してもらい、共同関係ができるのが理想 ・第2層協議体SC連絡会では町会や老人クラブ等、関係団体の支え合い会議への理解度が低いという声が聞かれた ・地域の高齢者や行政だけでなく、多世代も巻き込んだ取組みが必要と感じる